

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	子ども発達スクール かすたねっと（保育所等訪問支援）		
○保護者評価実施期間	2026年 3月 13日		2026年 3月 19日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	27名（定期的な利用者）	(回答者数) 24名
○従業者評価実施期間	2026年 3月 21日		2026年 3月 28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7名	(回答者数) 7名
○訪問先施設評価実施期間	2026年 3月 9日		2026年 4月 8日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象数)	14施設	(回答数) 13施設
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 4月 21日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	公認心理師、作業療法士の専門職を訪問支援員として配置しており、専門的視点から助言や説明を行っている。	保育所等訪問支援計画（個別支援計画）作成時には、各専門職が集まり、会議を行ったうえで、支援の方向性や目標などを設定しています。また、訪問先施設様や保護者様との情報共有だけでなく、職員間での情報共有を行い、各専門性の意見を踏まえた支援を行っております。	今後も会議や研修など、情報共有や知識の共有を行いながら、お子様、保護者様、訪問先施設様にとって、より良い支援を提供できるよう、尽力してまいります。
2	保護者様との情報共有や、定期的に保護者様との面談を行い、お子様の状態を把握しながら支援を行っている。	訪問支援前には、保護者様に最近のご様子をお伺いしております。訪問支援後には、訪問支援時のご様子や訪問先施設様と共有した情報などを保護者様にお伝えしております。また、お子様や保護者様の状態に合わせて、面談を行うことで、保護者様への支援としても取り組んでおります。	今後も継続して情報共有の機会を設けてまいります。また、面談につきましても、オンライン機器などを活用し、保護者様にとっても参加しやすい環境設定に努めてまいります。
3	就学時の移行の際には、就学先施設様と情報共有を行い、お子様が新しい環境に早くなれることが出来るように支援を行っている。	就学時の移行の際には、就学先施設様と情報共有の機会をいただいております。就学前施設様でのご様子や、療育でのご様子、保護者様から就学先施設様に共有したいことなどを伝えさせていただき、お子様、保護者様、訪問先施設様にとって、より良いスタートをきる事が出来るよう、支援を進めております。	就学時の移行の際には、大きな環境の変化が予測されるため、今後も継続して、就学時の移行の際には、就学先施設様との情報共有や保護者様への情報提供など取り組んでまいります。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	訪問先施設様への情報共有の方法。	訪問支援時以外にご連絡を取る際、療育時間と連絡時間がかぶってしまう等、電話では連絡がつかないことが多々ありました。	訪問先施設様と連携し、アナログからデジタル化へとICTを用いた情報共有方法を検討いたします。
2	訪問支援日の柔軟な対応。	訪問支援日につきましては、お子様の状態に合わせて保護者様、訪問先施設様とご相談した上で、決定させていただくように取り組んでおります。お子様の困りごとに合わせて訪問支援の回数を変更する場合があります。	行政・保護者様と受給量をご相談させていただき、訪問支援員のスケジュールを調整するなど、訪問支援につきましては、行政・保護者様や訪問先施設様とご相談させていただき、進めることが出来るよう、尽力してまいります。また、お子様の実態に合わせて訪問支援日数の変更を適宜検討してまいります。
3	訪問支援員の育成	訪問支援員は、高い支援スキルと経験が必要の為、育成が課題となっております。	子どもインクルージョン社会の実現に向けて、大学等との連携をいっそう高めて人材育成を行ってまいります。また、支援経験の短い職員と長い職員が同じ訪問先施設にお伺いし、支援の質を保証した上で、実践の場での経験値を積んでいくことができるよう、スケジュールを検討してまいります。